

投句欄 自由律の泉 ⑮

- 1 独り言に ひとりごと 檜 幽可
- 2 大人のいじめ働き盛りが辞めていく ちば つゆこ
- 3 歯車の狂った親分の一大事 白松 いちろう
- 4 青空に桜満開 大岳 次郎
- 5 さびしい風鈴が時々風を思い出す 久光 良一
- 6 桜、菜の花・・・春の電燈 アカホリ フキ
- 7 「ゲルニカ」のまだ燃えている町あらわれた 金澤 ひろあき
- 8 汽車の音鉄橋で変わり次は君の待つ駅 木村 浩
- 9 生きるために汚れた水ものらねこ 無 一
- 10 マリウポリ希望の欠けら握りしめ 原 さつき
- 11 恥ずかしい 花にこころ読まれて 植田 博
- 12 慈愛ふる木漏れ日のスポットライト 竹内 朋子
- 13 内職の賃代を話す貧し人々の日溜り 小山 榮康
- 14 三国同盟三頭目写真に愛国ヒス一国 行方 ほうい さつき
- 15 朝刊の音何処までも五月晴 野谷 真治
- 16 感動を与えると云った選手が病んでいる 伊藤 哲英
- 17 何か伝えたくて回っている水車 富永 鳩山
- 18 それでも桜は、ウエルテルは、私は 室伏 満晴
- 19 戦争とたんに人殺しが勇者になる 富永 順子
- 20 氷見線走れ海側に傾げ 篠原 紀子
- 21 棺ひつぎに手を振り母を火にあずける 部屋 慈音
- 22 深夜の月の光にそっと窓をあける 山本 説子
- 23 蝶が舞う猫は花びらのような子を生んだ 井尾 良子
- 24 母の文房具 使い切るまで生きる 新山 賢治
- 25 母さんいつも日だまり、今も 佐瀬 風井 梧

26 箸ですくうおかゆに光る朝 荻島 架人

27 あちこちに歪み地球も老いてきたか 黒瀬 文子

28 すれ違った釣りびとよシラタマソウ折れている 大迫 秀雪

29 なんの咎ありや素知らず虫潰す君の 柳 泉洞

30 せんべい頬張り昔のことみんな忘れた 平岡 久美子

31 愚挙な戦争 平和な国の はなみずき 和寄 はると

32 背中あつたか親として 田中 直心

33 直角な僕たちは座高測定してました 佐川 智英実

※本来なら「自由律の泉⑭」に掲載しなければならなかった篠原紀子さんの作品がこちらの不手際で抜けてしまいました。今回の「自由律の泉⑮」とともに鑑賞していただけますようお願いいたします。

34 宛名に氷見市と書いて冬 篠原 紀子

へ一句鑑賞◇ 汚れた夜露に泣く阿呆 江藤 霧鳴

▼やさぐれたような、少しやんちゃな涙を思い浮かべました。なんとなく寂しそうで、放っておけないような人なのかもしれません。(篠原 紀子)

● 泉 ⑭より 一句鑑賞

蹴ったゴミまた蹴って歩く

和寄 はると

▼よく似た行動に、田舎道で偶々見つけた空き缶や小石をドリブルしながら面白半分蹴って、先へと進んでいったことがあります。わが意通りに缶や小石は進まないもので、適当な処で放置します。ゴミの場合はどうなのでしょうね。

(檜 幽可)

▼なんでもないような句だが、作者の気持ちがよく現れている句である。故意か偶然かわからぬが一度蹴ってしまったゴミをよけることもせずに、もう一度蹴ってゆく作者の心の中の鬱屈の深さが見えてくる。

(久光 良一)

▼最初の蹴りは恐らく無意識で、ゴミに足がぶつかったものかと。で、この野郎！ って感じて蹴って歩く気持ち、分かります。私の場合、自宅でもそんなことやっています。片付けたり捨てたりするかわりにこん畜生！ って感じで。

(行方 ほいさつさ)

きれいな姿勢でたたずみたい

田辺 まさゆき

▼人が佇むとき、多くの場合、心は外の対象に向いています。この句では、自己に向いており、佇む自分を俯瞰しています。作者の生き方や佇ませる対象との関係性等、様々なことを考えさせられる作品です。

(室伏 満晴)

▼きれいな姿勢は、人を語り出します。それを、しっかと受けとめている作者であるからこそその句でありましょう。とかく、たたずみは、猫背の周辺のような姿勢になることと思います。私もきれいな姿勢で生き抜きたいです。

(大岳 次郎)

▼まだ現役時代の、お客様を待つ自分を思い出しました。警備員としてビルの受付（入出管理）きれいな制服姿で凜とし佇んでいました。私が思う佇むと、句のたたずむは、少し異なる、感じもします。

（田中直心）

力いっぱい抜いた大根の白がうまい

富永鳩山

▼丹精込めた大根が今年も立派に育った。掘りたての「白」の美味さが伝わってきます。これまでの努力が報われますね。

（白松 いちろう）

▼大きく育った大根を抜かれる姿が見えてきました。そして「白がうまい」と詠まれ、なんだか水水しい大根を食べてみたくなり、どんなお料理だったのかなあと、いろいろ想像させていただきました。

（山本 説子）

あの日のさよならきつと春の雪のせい

黒瀬 文子

▼寂しく悲しいけれど、優しく包み守ってくれる春の雪の技・・・言葉の響に絵本の一ページを開いた思いが致します。

（竹内 朋子）

▼語感と、絵がよい。解釈には様々ありそうだ。別れの原因が春の雪である、と解すると、これはどういう言い訳かな、と思う。季節外れの雪が本当にさよならの、最後の別れを逸させたともいうわけか、あるいは、あの日のさよならを思い出したのは、あの日と同じ春の雪のせいというわけだろうか。温かさで冷たさ、傷の同居する詩的な句だ。

（湯原 柳泉洞）

言葉と乖離する涙腺

江藤 霧鳴

▼ドラマを見てよく泣きますが、何に泣いているのか分からない事がよくあります。

（佐川 智英美）

起きそうな街を闊歩する革ジャン

室伏 満晴

▼まるで若かりし日の自分を詠まれたような錯覚に陥りました。夜明け直前の街を酔って気が大きくなって闊歩する。時に小競り合い。申し訳ない。まさかこんな風景が句になるとは思いもしませんでした。

（大迫 秀雪）

俯いていた人の影を踏んでしまった

湯原 柳泉洞

▼悲しみに俯く人の痛みへの思いがその影に足がかかってしまうことへさえいたたまれない気持ちにさせたのであろう。優しさゆえの戸惑いが伝わってくる。

（部屋 慈音）

残照に浮かぶ三日月を漕ぐ

竹内 朋子

▼夕暮れのうっすらとした三日月の舟にそつと一人乗っている。暗くなるまでの短い時間わずかな光を頼りに、どこへ向かうのか。儂く、叶わない旅のようで、切なくなりませぬ。

（篠原 紀子）

足もと見つめてた 介護の早期退職

金澤 ひろあき

▼身につまされて読みました。足元の先にあるのは自分の心なのでしようか。深い思いを残す句でした。

（小山 榮康）

雨あがる 鳥鳴き始める

大岳 次郎

▼状況がよく読みとれ、まるで作者と同じ景色を眺めているようです。鳥の声を入れることで、より情景が深まり、詩的に味わうことができました。

（アカホリ フキ）

ゴキブリにも有る目的を確かめる

ホームセンター造林鎌

▼確かに、「ゴキブリ」にも「目的」があるのでしよう。（無 一）

濃厚接触者というコロナのかんむり

平岡 久美子

▼京都でも濃厚接触者になると外出を控えるように指示されサポートはないと聞く。公助は届かず、共助は頼めず、自助のみ、かんむりをかぶせて放っておかれる。年金者はまだまし、収入が絶たれた人も。

(伊藤 哲英)

落ちてきそうな雲の色持ち上げてやる

田中 直心

▼毎日楽しいことを探すのは大変、空を見上げると今にも何かおきそうなどんよりとした雲の色思い切り少し残った力をふりしぼり雲をもち上げすっきりとした青い空を引き出してみよう。

(井尾 良子)

雲ふたつうそのような青空へ手をかざす

山本 説子

▼とてもリズムのいい句。ただ、うそのような青空つて何だろう？読み手としては悩みます。もし私だったら心はブルーで落ち込んでるのに空は途方もなくきれいな青で、悔しくって手をかざすといった心境でしょうか。

(原 さつき)

雑踏に逆らい進む君の車椅子

新山 賢治

▼最近はまだまだという感がありますが、障害を持った方も少しは自分の意志をおせるようになったのではないかと思えます。大変な雑踏の中を目的に向かって進む方をやさしいまなざしで見つめる人もいます。

(平岡 久美子)

青空あふれビー玉ひびわれる

内藤 邦生

▼ひびわれたビー玉を私も持っていた。小さなガラス玉に、それを手に入れた時の記憶、なかなか友ができず一人遊びした思い出が満ちていた。あの青い色は、あの頃の空の色の記憶であるに違いない。

(金澤 ひろあき)

貧しかった暮らしも六人家族の掘り炬燵

佐瀬 風井梧

▼我が家は、父母と五人の子供の七人家族、やっぱり子供の頃の思い出は掘りごたつの団欒です。大きな掘りごたつは食卓であり勉強机でもありました。古き良き懐かしい暮らしを思い出しました。

(ちば つゆこ)

● 係より

次回も、皆様の作品一句と、今回の作品の感想をお寄せください。左記宛て、同封の薄緑色の投句用紙、またはメールにて。

〈送り先〉〒193-0832 八王子市散田町2-58-4

平岡久美子

メール kumiko801@wh-wing.net

〈締め切り〉 2022年8月15日

★「自由律の泉」にご投稿いただいた句や感想は、原則的に自由律俳句協会の公式ツイッターでも紹介させていただきます。ツイッターでの紹介を希望されない方は、投句の際にその旨をお知らせください(投句用紙にチェック欄があります)。

第2回 自由律の泉賞 投句募集

同封の専用投句用紙、またはメールにて、作品一句をお寄せください。締め切り2022年9月10日。参加者全員による互選で賞を決めます(ニューズレターNo.19に詳しい募集案内を掲載しています)。

これまで「自由律の泉」に投句されたことのない方も歓迎です。皆さまのご参加をお待ちしています。